

# vManageクラスタでの" ; 統計設定 > ; 収集間隔" ; の変更

## 内容

---

[はじめに](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[背景説明](#)

[設定](#)

[確認](#)

[トラブルシューティング](#)

[関連情報](#)

---

## はじめに

このドキュメントでは、vManageクラスタでStatistics Configuration > Collection Intervalを変更するプロセスについて説明します。

## 前提条件

### 要件

シスコでは、Active Data Center(DC)のvManageクラスタ3ノードと、20.6.3コード3ノードvManageクラスタを実行するディザスタリカバリ(DR)の3ノードに関する知識があることを推奨します。

### 使用するコンポーネント

このドキュメントの情報は、20.6.3バージョンの3ノードvManageクラスタに基づいています。

このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されました。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、クリアな(デフォルト)設定で作業を開始しています。本稼働中のネットワークでは、各コマンドによって起こる可能性がある影響を十分確認してください。

## 背景説明

ディープパケットインスペクション(DPI)が有効な場合は、統計収集タイマーを30分以上に設定する必要があります。ユーザの設定が30分未満の場合、30分以上を設定する必要があります。

## 設定

データベースコレクション統計情報の設定を変更する必要がある場合は、vManageのリロードが必要です。vManageのクラスタの場合は、次の手順に従う必要があります。

1. DR vManageクラスタノードのトランスポートインターフェイスのステータスがDownであることを確認します。
2. Cisco vManageメニューからAdministration > Disaster Recoveryページに移動し、いずれかのvManageからアクティブクラスタのDRを一時停止します。
3. アクティブなクラスタの1つのvManageでAdministration > SettingsページのStatistics collection intervalを30分に変更します。他のvManageのタイマーも変更します。次の手順に進む前に、同じことを確認してください。
4. アクティブなクラスタ内の3つのvManageをすべてリブートして、変更を確認します。起動したら（約30分後）、3つすべてのvManageにログインし、変更が行われ、クラスタ接続が復元されたことを確認します。
5. Administration > Disaster Recoveryページに移動し、DRを再開して戻します。
6. レプリケーション間隔タイマーに従って、次のレプリケーションが実行されるのを待ちます。
7. レプリケーション後、DRクラスタにも同じ設定が存在します。次の手順に進む前に、同じことを確認してください。
8. これで、DRを再び一時停止してバックアップクラスタvManageを再起動するか、またはそのまま再起動できます。DR vManagesがリブートされている間は、レプリケーションの処理中でないことを確認します。

## 確認

vManage GUIでAdministration > Statistics Configurationの順に移動し、統計情報の収集間隔を確認します。

## トラブルシューティング

現在、この設定に関する特定のトラブルシューティング情報はありません。

## 関連情報

[Cisco vManageの統計情報データベースとディスク率のトラブルシューティング](#)

[Cisco vManageの統計情報データベース設定の更新](#)

[テクニカル サポートとドキュメント - Cisco Systems](#)

## 翻訳について

シスコは世界中のユーザにそれぞれの言語でサポート コンテンツを提供するために、機械と人による翻訳を組み合わせて、本ドキュメントを翻訳しています。ただし、最高度の機械翻訳であっても、専門家による翻訳のような正確性は確保されません。シスコは、これら翻訳の正確性について法的責任を負いません。原典である英語版（リンクからアクセス可能）もあわせて参照することを推奨します。